様式第２号（第１０条関係）

会議記録

附属機関の名称	熊谷市下水道事業運営審議会
開催日時	令和８年７月３１日（金） 午後１時３０分から午後２時３０分まで
開催場所	熊谷市水道庁舎３階会議室
出席者	李盛源会長、山下一男副会長、川田勝巳委員、橋本博委員、 今宗子委員、堀越奈緒美委員、加藤英明委員、藤井恵一委員 事務局　小暮上下水道部長、竹村経営課長、石原下水道課長、 西村副課長、荒巻副課長、岩見主幹、鈴木主幹、関塚主幹、 坪本主査、金子主事
傍聴人	なし
問い合わせ先 （所管課）	上下水道部経営課　　℡ 048-520-4132
内容	**１　開会** **２　会長あいさつ** **３　議題** （１）社会資本整備総合整備計画における事後評価について 事務局から社会資本整備総合整備計画における事後評価について説明を行った。 主な意見、質問等は次のとおり。 （意見、質問等） （委　員）A3 資料「5.事後評価対象の整備計画の概要」の令和 7 年度に「繰越」とあるが、できなかった事業をそのまま繰り越すのか、また、交付金を繰り越すことができるのか。 （事務局）工事の繰越に伴い、国の交付金も繰越手続をしている。 （委　員）・「6.整備目標と整備実績」について、妻沼水質管理センターは目標が 1 箇所のところ、実績は 3 箇所となっており、目標よりも多く達成した場合、交付金の対象となるのか。 （事務局）妻沼水質管理センターの改築更新事業という一つの事業の中で、妻沼水質管理センター内の老朽化した設備を更新するのであれば、国の交付金は活用できる。今回の実績 3 箇所についても、交付金の対象となっている。 （委　員）当初見積もっていた金額があると思うが、予定より多く工事を行うと予算が不足するのではないか。

	（事務局）5 年間の計画期間内で実施しており、1 年間の中で 3 箇所すべて工事したわけではい。新たに不具合が見られた設備について、翌年度以降に予算化し、工事を進めているため、予算が不足するということはない。 （委　員）雨水対策について報道でもよく目にするが、本市の雨水対策はどのように行っているのか。危険な地区など把握しているのか。 （事務局）A4 資料の最後のページが、事後評価していただく整備計画の中で整備した実績の位置図となっている。今回の整備計画では、籠原駅西側の国道 17 号沿いで道路冠水が見られる常襲区域のため、雨水対策工事を行った。国道 17 号の歩道上に大型の側溝を布設し、冠水地域から下流の雨水管へ流れ込むような工事を行った。また、籠原駅南口から三尻中学校へ向かう都市計画道路籠原南口線の道路整備に伴い、元々雨水計画があったため、道路整備に先行して雨水管の埋設工事を行った。 （委　員）令和 7 年度以降もこの交付金を活用するという考えでよいか。 （事務局）令和 7 年度から新たな整備計画を立てており、その整備計画の中で交付金をいただいて事業を進めている。 （委　員）5 年計画の場合は 5 年分の交付金要望額を国に示すと思うが、交付金の金額はどのように決めているのか。どのように査定しているのか。 （事務局）予め 5 年もしくは 4 年の計画を立て、当初計画である程度の見込みを計上しておくが、交付金自体は、毎年国の方へ翌年度いくら交付金をくださいというような要望を出す形になる。金額については、翌年度の予算編成の状況や、その中で補助対象になるもの、ならないものを見ながら要望している。それに対し、国の方で、他の都道府県等のバランスを見ながら配分されている状況である。交付金自体が本市にいくら配分されるのかというのは、国や県の裁量で充てられるもののため、必ずしも要望した額がつくわけではない。 （委　員）今までの実績では何割ぐらい配分されているのか。 （事務局）直近 5 年では、熊谷市公共下水道計画（重点計画）という計画では、令和 4 年度まで要望した額に対し 100%交付金がついていたが、令和 5 年度以降、要望した額に対する内示率が下がっており、平均すると、大体 90%である。安心安全を実感できるまちくまがや（その 3）については、老朽化対策等が今般盛んになり、

	他の市町村でもかなり要望額が上がってきている状況のため、要望した額に対し、平均で6割強、7割弱となっている。 （委　員）A3 資料「6.整備目標と整備実績」①について、目標と実績の差が出た要因として「面整備の前提となる幹線管渠の整備を重点的に実施した」とあるが、幹線管渠を重点的に実施することは計画の段階でわかっていたのか。 （事務局）当初予定していた面整備から幹線管渠の整備へ方向転換した理由については、幹線管渠というのは、道路下の深いところに埋設することから、通常の道路を掘って管を埋める開削工法と異なり、道路下をトンネルのように掘って進む推進工法を採用しており、面整備で埋設される枝線管渠の工事費用よりも高額となる。また、交付金の内示率は年々減少傾向にある中で、もし幹線管渠を予定通りとした場合、この交付金が十分に配分されない可能性があると国や県からの情報提供があったため、費用のかかる幹線管渠整備をできるところまでやっておいた方がいいだろうと判断した。 （委　員）物価高等の他の要因ではないという理解でよいか。 （事務局）物価高はこの1年ぐらいだが、幹線管渠を先行したのは、それよりも少し前である。 （委　員）汚水整備達成率が低い理由については理解した。今後、幹線管渠の整備も重点的に実施していくと思うが、それには交付金が交付されないのか。 （事務局）まったく交付されないというわけではない。要望した額に対していただいた交付金を有効に効率的に活用するため、幹線管渠の整備を進めながら、前回計画の中では少し取りこぼしがあった面整備も並行して進めていく。 （委　員）先程は、交付金の実績にはカウントされないという説明だったが、今後幹線管渠を整備していく中で、実際には交付金は交付されないという理解でよいか。 （事務局）下水道事業の根幹をなす管渠のため、面整備でなく幹線管渠だからといって交付金がつかないわけではない。 （委　員）先日の台風の際、整備されたばかりの石原の区画整理が終わった秩父県道との交差点を車で通ったところ、対向車の水で前が見えなくなるほど水が溜まっていた。令和7年度からまた新たな下水道の計画を立てていると思うが、新しく水が出てきたところも含めて今後計画していくのか。 （事務局）国道17号については、国道事務所で整備を行い、西熊谷病院の対向側が土地区画整理となる。下流側の放流できる河川な

	ど、放流場所を確保しながら下流から整備を進めていかないと、上流だけできあがっても流す場所がない、ということになるため、計画的に下流側から整備を進めていく必要がある。この区域については、下水道がまだ整備できる段階ではないため、現時点では工事の目途はたっていない。新たに冠水するような情報があるのであれば、加味した計画を今後検討していきたい。 （委　員）幹線管渠の方が工事金額が大きいため、計画を変更したということだったが、今後も幹線管渠と枝となる管渠を同時進行することになるのか。 （事務局）面整備については、幹線管渠ができあがっていないと先行して整備することはできないため、幹線管渠の整備を先行しつつ、追いかけながら面整備を拡げていく形になる。 （委　員）交付金の中で計画的に進めることももちろん重要なことだが、幹線管渠と枝管の整備は、市の予算でも少しずつは進めていくのか。 （事務局）汚水の新設整備や老朽化対策、雨水対策についても当然必要な施設のため、交付金が仮になくなったとしても、自己資金でできる範囲は計画通り進めていきたいと考えている。 （委　員）急激な物価高ということで、修繕の価格が上がっている状況である。下水道の整備についても、コストが上がっていることは想定できるが、現状として、当初予定していたものよりどの程度コスト高が起きているのか。 （事務局）令和5年頃から急激に上がっており、工事を行う作業員の人件費も同じように上がっている状況である。令和5年から今年にかけて 4～5%程度人件費は上昇している。また、中東情勢等の影響で石油が入ってこないということもあり、石油由来の塩化ビニル管が3～4割値上がりしていると聞いている。工事全体で何%か把握していないが、人件費や材料費は確実に高騰している。 **４　その他** 委員から、豪雨の際にマンホールが飛ぶ事例があるが、飛ぶおそれのあるマンホールについて目印をつける等の対策をして市民への周知が必要、との意見があった。 **５　閉会** 以上